

【全国学力・学習状況調査の分析】 国語

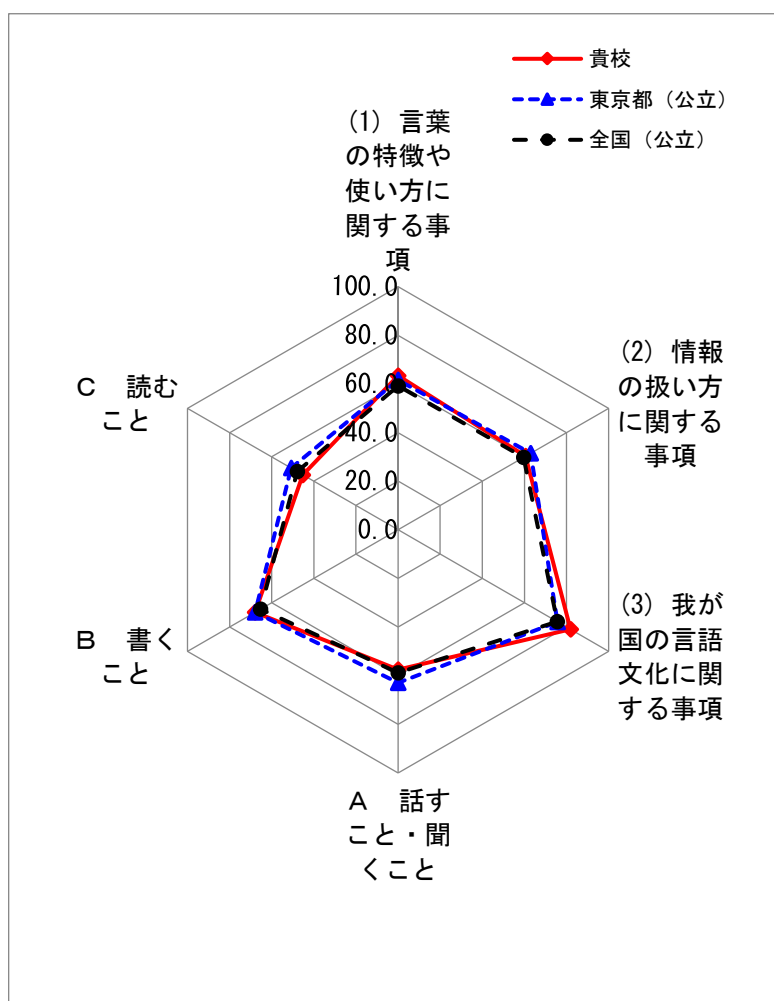
全国の分析結果では、①事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られた。②自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られた。

⇒小・中学校を通じた効果的な資質・能力の育成のため、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要である。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞

本校は、都および全国と比べて、全体の正答率では大きな差は無いが、思考力、判断力、表現力における「話すこと・聞くこと」「読むこと」について低い結果となっている。また、記述式における問題形式において無回答率が高く、自身の考えや意見、感想、思いなどを表現することに課題が見られた。

⇒目的に応じて必要な情報に着目して本文を要約することや話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるよう言語活動を工夫し、知識・技能の習得に加え、思考力、判断力、表現力における「話すこと・聞くこと」「読むこと」の力を伸ばしていく必要がある。



【全国学力・学習状況調査の分析】 数学

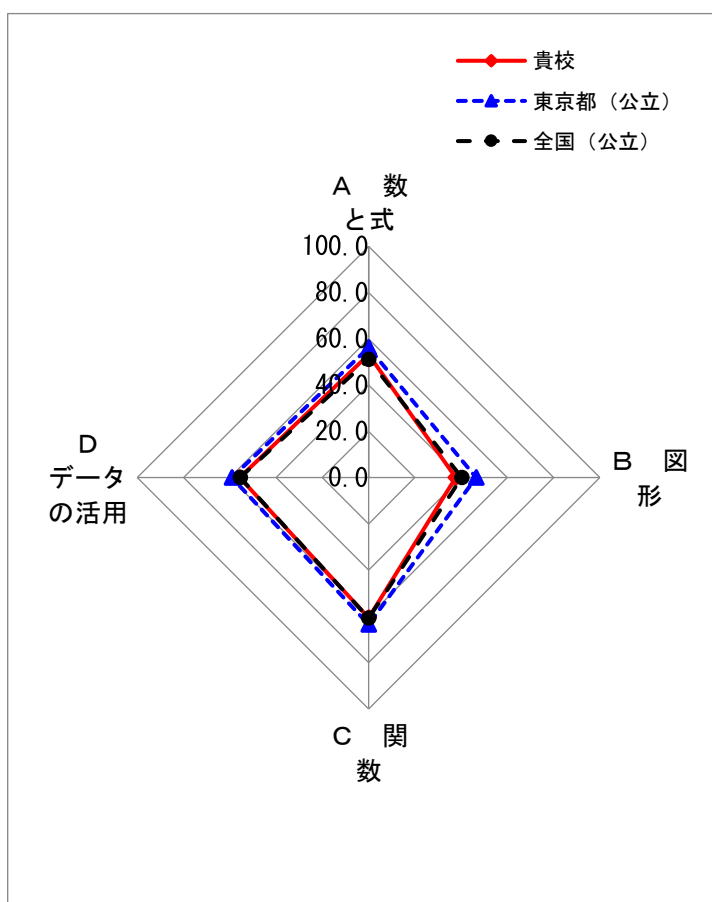
全国の分析結果では、①図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。②複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

⇒日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要。また、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせることが重要である。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

本校は、全体の正答率では東京都より 4 ポイント低いですが、全国と比較するとほとんどの項目が上回っている。しかし、図形領域は 8.7 ポイント、思考力・判断力・表現力の観点に関する問題は 6.4 ポイント東京都より低い結果となっている。また、国語と同様に、記述式における問題形式において無回答率が高く、数学的な表現を用いて説明することや筋道を立てて考え、証明することに課題が見られた。

⇒複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明するなどの言語活動を取り入れる。また対話的な学びの場を工夫し、思考をまとめたり、発表したり、表現したりする機会を増やすことで、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく必要がある。



【全国学力・学習状況調査の分析】 生徒質問

全国の実験結果（抜粋）

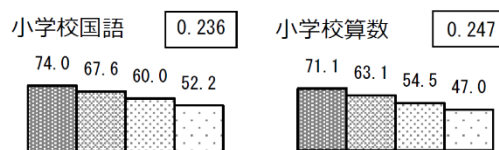
「学習指導要領の趣旨を踏まえた取組」

- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感等が高く、自分で学び方を考え工夫している。
- ◆ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に取り組んだ児童生徒グループは、他のグループに比べて、各教科の正答率や授業の理解度、挑戦心・自己有用感・幸福感等が高い。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



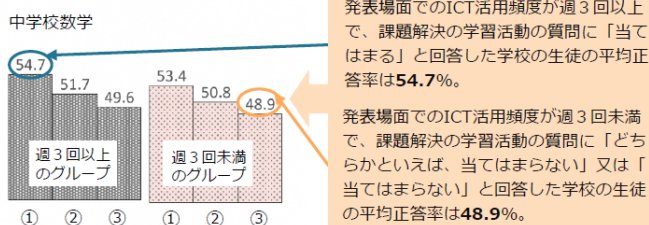
「ICT 機器の活用」

- ◆ 課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面で ICT を活用している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外のグループよりも各教科の正答率が高い。

発表場面でのICT活用頻度別に見た学校質問「課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動」の選択肢ごとの教科の正答率

課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動

① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない



発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は**54.7%**。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は**48.9%**。

- ◆ 約9割の児童生徒が、以下のような ICT 機器活用の効力感を感じている。
 - ・ 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる
 - ・ 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
 - ・ 友達と考えを共有したり比べたりしやすくする

「学校外での過ごし方」

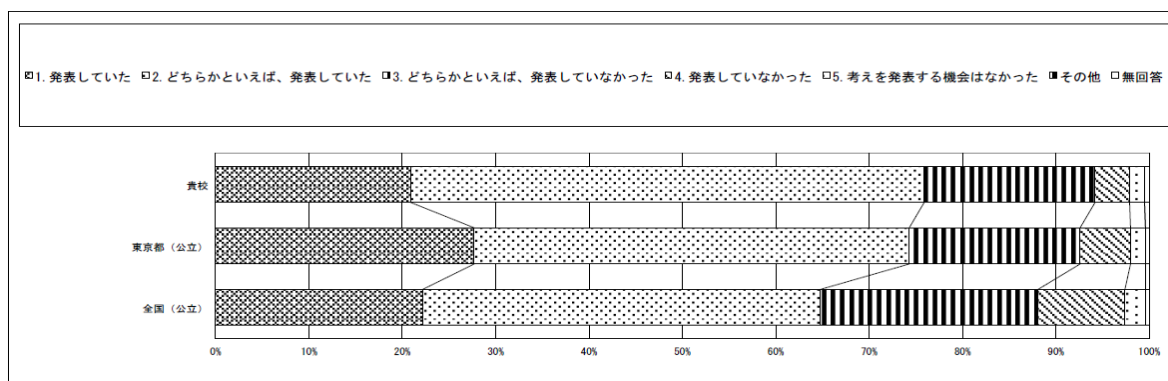
- ◆ 学校の授業時間以外の勉強時間は、小・中学生とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。
- ◆ テレビゲーム*をする時間は小・中学生とも横ばい、SNS・動画視聴の時間は、小学生は横ばい、中学生は微増の傾向。

*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

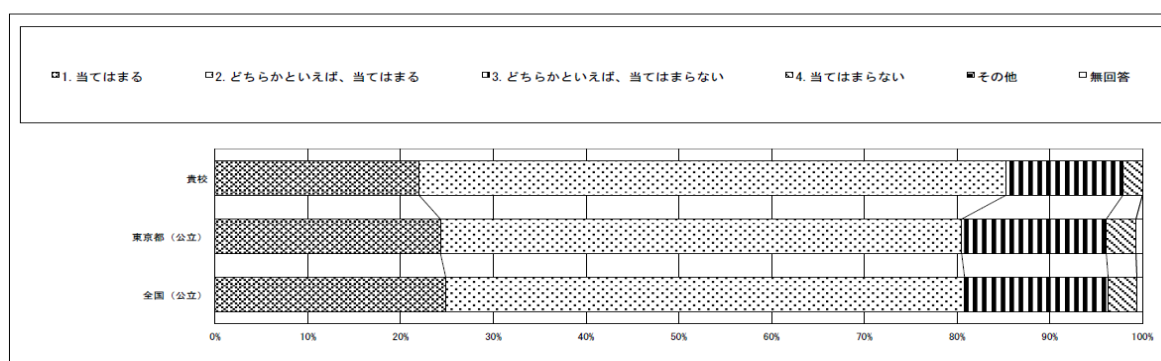
大坂上中学校の分析結果

「学習指導要領の趣旨を踏まえた取組」

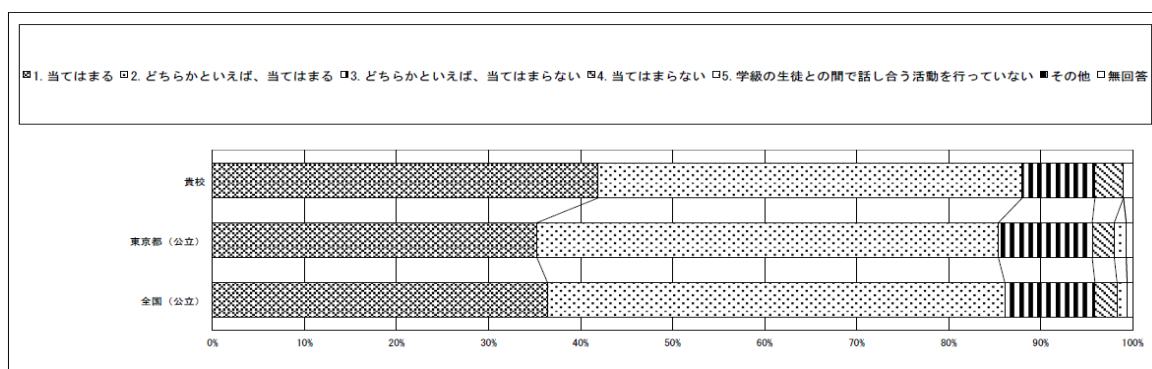
- ◆ 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



- ◆ 授業で、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



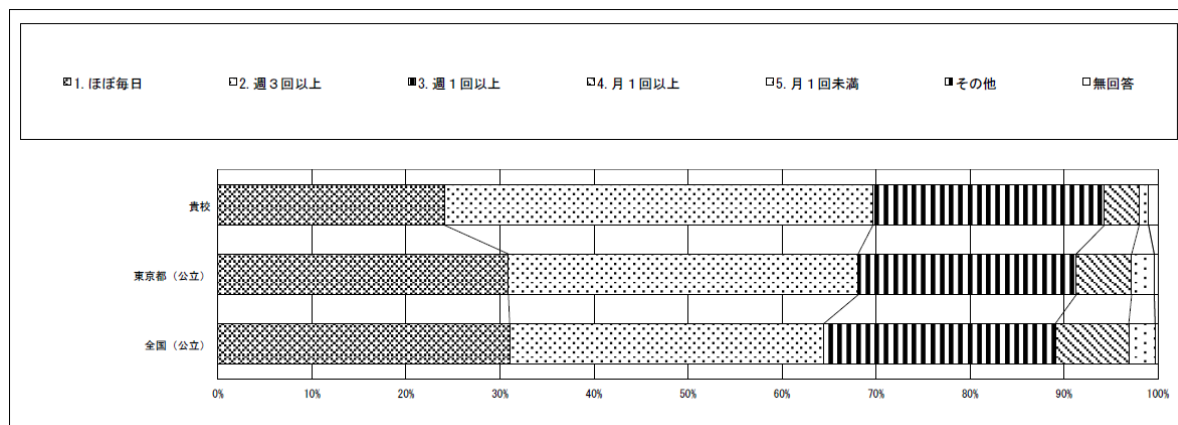
- ◆ 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒一人一人に合わせた教材・教具の準備や授業展開の工夫を通して、教員が一方的に授業を行うのではなく、言語活動の充実や、生徒同士の話し合い、意見を共有する機会を増やしている。その結果、生徒の気づきや学びを深めることができている。さらなる授業改善とともに、生徒が主体的に学ぶ力を育成していきます。

「ICT 機器の活用」

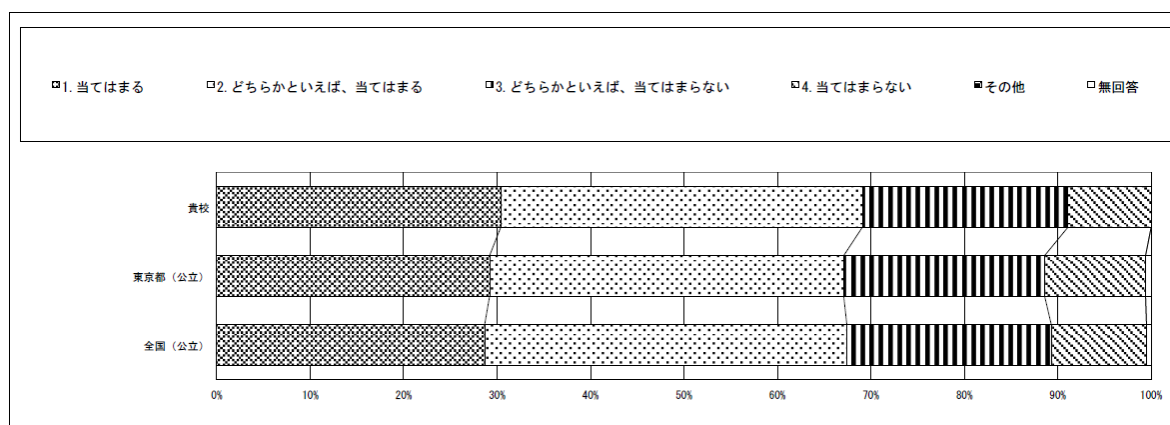
◆ 授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか



本校では、毎回の授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を利用するのではなく、ICT 機器に加え、教科書やプリント、図書教材なども活用しながら、生徒にとって充実した学習環境になるよう工夫しています。週3回以上の PC・タブレットなどの ICT 機器使用については、都や全国を上回っています。今後も生徒の学習理解に役立つ使用方法について工夫を重ねていきます。

「学校内の過ごし方」

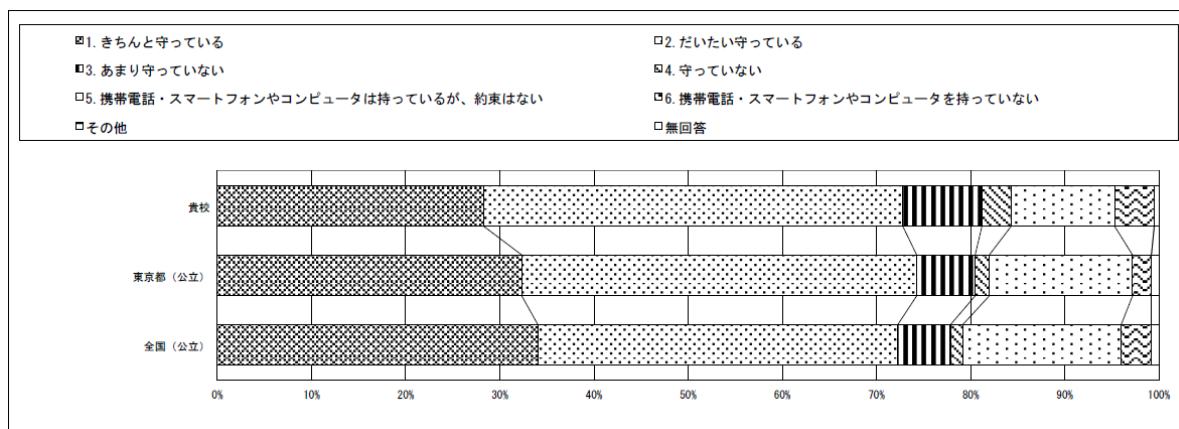
◆ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



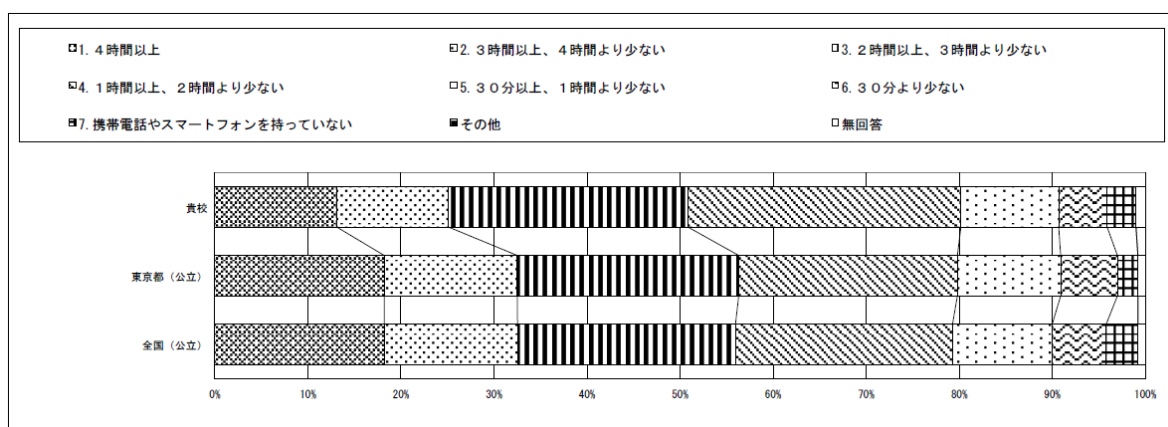
本校では、休み時間や昼休み、放課後など、生徒の様子を見守り、声をかけながらいつでも相談できる雰囲気づくりに力を入れています。普段からのコミュニケーションを大切にしながら、子供たちに寄り添い安全で安心できる学校を築いていきます。

「学校外での過ごし方」

- ◆ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



- ◆ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか



本校は、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴の時間は、都や全国と比較すると短い傾向にありますが、スマートフォン等の利用によるトラブルや生活リズムの乱れがみられる生徒は少なくありません。また、携帯電話やスマートフォンの使用について約束やルールを守れていない傾向があります。もう一度、ご家庭での確認が必要だと考えられます。

今この瞬間を大切に、未来を逞しく生きる生徒の育成

「明日も楽しみ」と
思える授業

「明日も会いたい」と
思える教師・友達

「明日はもっと！」と
思える取組

明日という小さな未来に思いを馳せることができる学校